

# 洗脳の心理学

こんにちは。  
相沢蓮也です。

よく、

女性を依存させて、あなたから離れられなくする方法。

みたいなタイトルを見かけます。

依存させるメリットってのは確かにあって、その事により、

- ・女性があなただの言いなりになる、

というのも分かります。

さて、ところが、です。

その手のヤツ。

つまり、

- ・オンナを依存させる技術

みたいなのを読んで、本当にそれが出来るようになった人って、どのくらいいるんでしょうか？

というか、そもそも、

- ・ オナを依存させる技術

というタイトルの本や商材の中に、本当に『オナを依存させる技術』が書かれていたことってありますか？

なんか、つい、読んでみたくなるようなタイトルに惹きつけられて、思わず購入。

実際に読んでみると、なんだかソレっぽいや心理学の理論がいくつも書かれていて（でもほとんど机上の空論なんだけどね）

ふ〜ん。勉強になったなあ…

…

…

…

…

で、終わり…

当初の目的であった、

- ・ 女性を依存させる技術

はどうしたのさ。

って話です。

こんな調子だから、あなたはいつまでたっても女性を依存させ、言いなりにさせることが出来ない。

そこで今日は、

- ・女性を依存させる心理学

についてお話してみようと思います。

で、最初に押さえておきたいのが、

- ・そもそも、『依存させる』って何？

って話です。

依存って何なんですかね??

ちょっと、考えてみてください。

オンナが男に依存する、とは、  
オンナが男に頼り切る、ってことだと  
思うんですが、

じゃあ、何を『頼り切る』のか。

人生の意味？

存在の理由？

快樂の根拠？

う～ん。どれも近いけど、あと少し。

女の子って、占いが好きじゃないですか。

あの感性が、一番答えに近い。

『依存する』とは何か？

答えは、

・判断をゆだねる

です。

先日、エッチ友達とデートしてたら、  
そのコがとても興味深いことを言ってました。

とりあえずM美としときます。

M美は最近、彼氏らしき男が出来た  
んですが、その彼の発言にかなり

「イラっ！！」

としたそうです。

こんな話です。

ある夜、酒に酔った彼から電話がかかってきたそうで、その時、彼は

「オレのどこが好きなの？」

と、しつこく聞いてきたそうです。

M美が答えられないでいると、彼は

「なんで答えられないの。  
もっと、ちゃんと考えた方がいいよ」

と。

M美はその態度にムカついて、イラッとして、がっかりして、

電話を切ったそうです。

...

...

...

その彼は、随分と、自分に自信が無いんだなあ。

というのが僕の感想だったんですが、  
この話には、とても大切なヒントが  
隠されています。

M美はなぜ、

イラついて

ムカッとして

がっかりした

んでしょうか。

M美自身、分かっていなかったんですが、  
答えは明白です。

本来、男は、女性に対して

「自分のどこが好きなの？」

なんて、聞いちゃあいけません。

これは、自分という男を選んだ、その判断  
の根拠を女性に求めているからです。

「お前がオレを選んだ、その選択は正しい！」

「オレが世界で一番いい男に決まってる  
んだから、黙ってオレについてこい」

これが正解。

人間にとって、一番のストレスって  
なんだか分かりますか？

それは、

・未来を判断すること

です。

「決断」といった方が分かりやすいだろうか…

さっきの例でいうと、

女性が男を選び、付き合う時、  
または、結婚する時、

「本当にこの人でいいのか？」

「この人として、私の将来は大丈夫だろうか？」

こういう不安が、必ず強く付きまといます。

あるいは男には無い感覚なので、  
分かり辛いかもしれませんが、

男に狩りに行かせ、その成果で子供と  
自分を養わなければならなかった、はるか  
昔のDNAかもしれません。



男が思っている30倍くらい、自分の将来は、  
選んだ男によって大きく左右される、

と考えてます。

その不安に怯えています。

だから、男は、その不確定、不確実な  
未来についても、

「大丈夫。オレが全部判断してやる。  
そうすれば必ずお前は幸せになる！」

と、あえて『断言』してみせる。

こうやって、何が起きるか分からない未来について、  
根拠のない『判断』を女性に変わって  
してあげること。

これが、依存させる、ということです。

本質は、占いとか新興宗教と一緒にですね。

科学的な根拠を抜きにして、信者の将来を  
「オレの言う通りにすれば、大丈夫」

と断言してあげる。

これが、人間にとって、凄い楽チンというか  
とんでもない快樂なんですよ。

優秀な人間はいくらでもいます。

頭の良い人間もいくらでもいる。

でも、コントロールしようの無い未来について、  
「これで大丈夫」

と断言できる人間は、かなり少ない。

優秀な管理職とか、プロデューサーとか、  
占い師とか、教祖様とか、

ま、いわゆる

・カリスマ性

の正体とも言えますね。

ちょっと話が大きくなっちゃったんで、  
もっと身近に戻しますが、たとえば、

女性と2人でお昼を食べに行った時、

オシャレなパスタのお店と、  
雰囲気の良い居酒屋。

どちらに入りますか？

って選択を迫られたとき、その女性に、  
これといった好みや主張が見られないようなら、  
どちらに入るかは、あなたが決断すべきです。

どちらのお店に入った方が良いか、そんなのは入ってみないと分からないし、保障もない。

そういう時、そういう不確実な未来についての『判断』は、あなたがする。

依存させるとは、この延長です。

この場合は、居酒屋か、パスタ屋か、程度の判断だから、請け負っても、それほど強いストレスには、ならないでしょう。

でもこれが、人生において重要な判断であればあるほど、その判断がその後の未来を大きく変えてしまう可能性のあるものであればあるほど、

誰も、その判断を下したがりません。

恐ろしいから。  
不安だから。

それがストレスだから。

そこを、

- ・代わりに判断してあげる
- ・自信を持って断言してあげる

で、1回でもこの判断のおかげで、その後の物事が上手く行ってしまったなら…

その女性はあなたにドブプリと依存します。

一部の占い師や、新興宗教の教祖のやり口です。

女「AとB、どっちがいいのかしら」

って時、

「う〜ん。Aを選べばこういうメリットと  
デメリットがあって、Bを選べばこういう  
メリットとデメリットがある。

あとは君が判断しなさい」

だと、公平な態度だとは思うけど、『判断』と  
いうストレスを女性に投げてるから、依存させる  
という方向へは教育できません。

女「AとB、どっちがいいのかしら」

って時に、

「Aがいいに決まってるじゃん。絶対に  
そっちの方がお前に向いてるよ」

って、あえて男が断言する。

で、この判断が1回でも当たっちゃった場合、  
そして、このことが、その女性の人生にとって  
大きな影響を及ぼせば及ぼすほどに、

「この人の言う通りにすれば大丈夫」

という実感となって、女性はどんどん

自分の頭で考えることを止め、

あなたの言いなりになります。

「あなた無しでは生きられない」

とはこういう事です。

まだまだ、入口ですが、今日はこのへんで。

相沢蓮也